



研究室紹介

文学部 国文学科

SUZUKI Takashi
鈴木 喬 准教授

1980年愛知県生まれ。愛知県立大学大学院国際文化研究科博士後期課程修了。博士(国際文化)。九州共立大学専任講師を経て、2021年奈良大学文学部准教授として着任。現在に至る。研究対象は、7・8世紀の文字言語とその運用に関する研究。特に『古事記』『万葉集』のいわゆる「万葉仮名」を対象とする。主な著書に、『万葉集の基礎知識』(共著、角川選書)、『万葉をヨム 方法論の今とこれから』(共著、笠間書院)がある。

神話・和歌・出土文字資料に魅せられて

みなさん、ご存じでしょうか?『古事記』『日本書紀』の神話や、『万葉集』の和歌が漢字のみで記されていることを。奈良時代は漢字でしか日本語を表現できませんでした。私は日本語をどのように漢字で記すのかを万葉集や出土した遺物などを対象に研究したり、文学の文字表現について研究したりしています。また現在、万葉集において考古学、歴史地理学の知見を援用しながら考察することも行っています。

文学は時代の産物であり、研究するうえで歴史・社会の背景を知らなくてはなりません。また人の営みは地形と深く関わりあいをもち、また人の行為は心理的なものに左右されます。その点、奈良大学は文学だけでなく、歴史学・考古学・地理学・心理学・社会学…とcrossover(交差)して学ぶことができる、とてもワクワクする環境にあります。

どこに進むか、何を見つけるかは自分次第。人はそれを可能性という

実は…私自身、高校卒業したら就職を予定していました。高校時代に働いていたバイト先の社長から「教養は社会において必要だ。大学卒業後の面倒は見てやるから、世界を広げて来い!」と背中を押されて、大学に進学しました。古代史と古典が好きだったのと、何より国語の先生が好きだったので国文学科へ。大学時代は「図書館のヌシ」と呼ばれ、気がつけば大学教員になっていました。大学生になって神話や和歌の世界、日本語と漢字の関係や、出土資料に記されている文字などに魅了されて…。「学問」って実は楽しいもので、楽しいもの、好きなものはなかなか止められません(…職業にすると、いろいろ大変ですが)。

「奈良」で学ぶ、「奈良」を学ぶ

私の担当する授業に実地見学踏査というものがあります。平城宮跡、東大寺、石上神宮、石舞台古墳…、神話や和歌にゆかりのある場所に実際に足を運び、文学の世界を体感します。その地の名物を食べたり、お土産を購入したり楽しく学んでいます(「遊び」に見えますが、それも「学び」だと私は考えています)。実際にホンモノを見て、また歩くことによって地形の高低差を感じる。実際に見て、感じることでわかることがあります。奈良は、かつての「みやこ」であり、日本の始まりの場所です。そして文学の中心地でした。学生とともに奈良を知り、奈良を再発見する。奈良で学ぶからこそその授業を行っています(奈良県民も意外と“奈良”を知らなかったりします)。

受験生へのメッセージ

「学問」とは“楽しい”もの。楽しいからこそ、知りたくなるし、追求したくなる。そのようなものに出会えるのが“大学”なのです。

人生において心が弱くなるときが必ずやってきます。私もそうでした。そのなかで『ドラえもん』の「目が前向きについているのはなぜだと思っ?前へ前へと進むためだ。」というコトバには励まされました。人は1歩ずつしか歩けません。だからこそ、ゆっくりでもよいのです。前をしっかりと見て、確かな足取りで進んでいけば道は開かれます。



ならぶ
Na Love

Nara University Bulletin Vol.190

新学長ご挨拶

このたび、2022年4月1日付けで奈良大学学長に就任いたしました。奈良大学が1969年に誕生してから53年、これまでに39,000人の卒業生を送り出してきた歴史と伝統を継承することの責任の重さに身が引き締まる思いです。

学長 **今津 節生**
IMAZU Setsuo

1. 本学を取り巻く状況

ご存じのように、本学を取り巻く環境は厳しさを増しています。18歳人口は急激に減少を続けています。1992年の205万人をピークに2020年に117万人、2033年には101万人に減少します。大学が教育や研究の観点において社会に価値を提供し続けるためには、受験生や指導教員、学生、保護者の皆さんから「選ばれる大学」になるしくみを整えることが重要だと考えています。

2. ブランド力の向上に向けて

本学では2016年度から大学のブランド力を向上させるためにUI(ユニバーシティ・アイデンティティ)を推進しています。UIとは大学のアイデンティティ、つまり大学独自の特徴や理念を学内外に発信する活動です。少子化や情報化などを背景に、大学も自らの個性を発信していくことが求められるようになり、ブランド力を高めるUIの重要性が高まっています。他大学との違いをわかりやすく伝えながら差別化を図り、奈良大学の魅力を明確に示し、学内外のステークホルダーである受験生や指導教員、学生、保護者の皆さんに本学の魅力を伝えることができるように、地元の奈良・大阪・京都だけではなく、全国に向けて奈良大学のアイデンティティを発信したいと考えています。

3. 奈良の魅力を生かした学び

奈良大学の周りには、学びの素晴らしい環境が広がっています。徒歩や自転車、あるいは電車に乗ってすぐの場所に、歴史遺産が豊富にあり、古都・奈良全体が奈良大学の学びのフィールドとなっています。奈良大学では従来から、学外に出て実力をつけ、社会に出たら即戦力になるような人材を育ててきました。これからも恵まれた環境のなかで、キャンパスだけにとどまらず、学生にいろいろな経験を積んでもらい、卒業後は出身地や地元以外でも奈良で学んだことを実践し、地域活性化に貢献していけるような人材を育成していきたいと考えています。

4. 奈良から世界へ 高度で多様な研究力の向上

一方、奈良はシルクロードの終着点でもあります。奈良から世界を見据えた研究力の向上にも力を入れたいと考えます。研究は大学における教育や社会貢献の基盤です。科学研究費等の競争的資金を積極的に獲得しながら、奈良から世界へ新しい研究を発信して行きたいと考えています。外部資金の獲得に関して本学教員の健闘は高く評価できます。今後も本学の強みや特色ある研究をさらに伸ばして、本学を「知の拠点」として発展させることが重要な課題です。教員の研究が活発になれば学生の学問に対する意欲も活発になると信じています。

新型コロナウイルスの感染状況が落ち着けば、海外にも積極的に目を向けたいと考えています。学生も参加できる国際会議も開きたいと考えています。学生にも奈良から世界に視野を広げてほしいと願っています。そのためにも海外の提携校を増やして留学の機会を増やしたいと思えます。

5. 就職や社会貢献に繋がる学びのプログラムの充実

本学では、専門的な学びを活かし、教員、博物館学芸員、司書、公務員として、あるいは学科の特色をもつ資格を活かして、社会で活躍する卒業生を数多く輩出しています。

教員免許は文学部国文学科・史学科・地理学科・文化財学科、社会学部総合社会学科で取得が可能で、多くの卒業生が教員として活躍しています。教職課程担当教員による個別相談や面接・模擬授業指導、キャリアセンター主催の教員採用試験対策講座など、さまざまな支援を行っています。

文学部で最も人気のある資格は博物館学芸員です。この資格課程では、奈良大学博物館を含む多くの博物館で館園実習を行います。学芸員資格を取得した学生は全国の博物館や公共団体に就職して地域の文化を広く紹介する仕事に就いています。

文学部地理学科では測量士補(国家資格)や地域調査士・GIS学術士(日本地理学会)の資格取得が可能で、資格を活かして企業で活躍する卒業生を輩出しています。

社会学部心理学科では、本学大学院に進学し、附属施設である「奈良大学臨床心理クリニック」などでの実習を通して専門性を高め、公認心理師(国家資格)や臨床心理士の資格を取得して心理専門職に就く卒業生もいます。

総合社会学科では、知的財産管理技能士(国家資格)やリテールマーケティング(販売士)などの資格の取得が可能です。将来に繋がる正課授業やキャリア形成プログラム、キャリアセンターによる各種支援プログラムなどにより、奈良大学は、目指す進路の実現に向けた学生のサポートに努めます。

最後に、本学の創始者である藪内敬治郎先生が大正14年に南都正強中学を創立されてから、2025年に開学100周年を迎えます。本学の強みや特色を明確にして社会的役割を一層果たして行くためにも本学のさまざまな機能を強化する必要があります。

100周年に向けて教育・研究の一層の充実と活性化を図り、さらなる発展を目指していきたいと考えておりますので、今後も皆様方の格別のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

Contents

- 1 巻頭特集
新学長ご挨拶
- 3 キャリアサポート
4年間の過ごし方
- 7 トピックス
- 8 クローズアップ
- 11 通信教育部生便り
- 12 活躍する卒業生
- 13 インフォメーション
研究室紹介
- 15 文学部 国文学科
鈴木 喬 准教授

4年間の過ごし方

大学での4年間は、自分を知り、将来の自分をイメージし、思い描いた未来へ踏み出す準備期間でもあります。大学生活でのさまざまな取り組みについて、学生、卒業生に話を聞きました。

キャリアセンター(A棟2F)

キャリアセンターでは学科ごとの担当者が皆さんの来室をお待ちしております。就職活動の相談はもちろん、1年生から進路の相談を受け付けています。オンラインでの面談や電話での相談も行っています。キャリアセンターのガイダンスなどはオンラインでも開催しています。WEBを利用した就職活動に慣れるためにも積極的に参加しましょう。

- 学生の声
- ①活動の理由やきっかけ
 - ②活動内容
 - ③メッセージ

1年生

1年生は大学生活をいっぱい楽しんでください。授業はもちろん、クラブ活動、サークル活動やアルバイト、ボランティアなどに積極的に参加し、いろいろな経験をするのが大切です。コロナ禍により活動が制限されていますが、その中でも自分を磨くことをいつも忘れず、些細なことに感動する感性を養いましょう。

授業

全学選択科目『プロジェクト』グループリーダー

社会学部 総合社会学科
3年 永田 琴音さん



- ①令和3年度の『プロジェクト』のテーマが「地域の安全安心」という身近な問題だったので興味を持ちました。グループワークを通して学生同士で交流したいという思いもありました。
- ②私の班は明日香村の観光安全マップを作成しました。地元の方に話を伺ったり、歩いて自分の目で見たりすることで、事前調査ではわからなかったことが確認でき、現地調査の大切さを感じました。
- ③授業は終わりましたが、私たちの班は、今後も地域連携活動の一環として明日香村の魅力を発信するボランティア活動を行う予定です。新しいことを始めたい人は、地域連携活動に参加してはどうでしょうか。

課外活動

情報処理センター学生スタッフ

文学部 文化財学科
3年 長澤 豊さん



- ①情報処理センター主催の「はやうちタイピングコンテスト」の時に、学生スタッフ募集を知り、自分の持つパソコンの技術を何かに生かしたいと応募しました。
- ②自習利用の受付と利用者サポートをしています。また、自らの得意分野であるOfficeソフトに関する資格講座の企画・運営をしました。自分の当たり前が相手には未知のことで、説明する難しさを痛感した体験から、相手に伝わるためにどうすればよいかを考えるきっかけになりました。
- ③一番でなくとも、これは人一倍できるというものを何か持つことをお勧めします。その自信が自分の原動力になるからです。



講座を企画運営

課外活動

史学会学生委員

文学部 史学科
3年 中西 栄美さん



- ①将来の進路は歴史に直接関係しない分野を考えているので、学生時代に好きな歴史を徹底的に究めたいと思っています。なんでも経験しようと思いついた「奈良大学史学会」の学生委員に参加しました。
- ②主な活動は史跡等の見学ツアーの企画・実施と青垣祭での展示です。興味関心の対象が似ている友達ができ、とても楽しいです。
- ③史学科の学生限定ですが、何かを始めたい人は、史学会の学生委員をしませんか？



1年生に学生委員の活動を説明

課外活動

ボランティア

文学部 国文学科
4年 降旗 美貴さん



- ①1年生の頃、教職課程の授業後の教室で、1人の上級生がボランティアへの参加を呼びかけました。100人以上の学生の前で堂々と勧誘する姿に、自分もそうなれたらと思いました。
- ②学外の団体が主催する小・中学生対象のキャンプで、ボランティアリーダーとして活動しています。多様な子どもたちのサポートはうまく行かないことも多いですが、課題を整理し、時には先輩に相談し、改善策を考えて実践しています。
- ③大学時代に得たものは、人生で価値のある貴重なものになると思います。自分からどんどん挑戦していけば新たな経験や出会いがあります。4年間は思っている以上に短いので、勇気を持って一歩前に進み、素敵な学生生活にしてください。

2年生

2年生は少しずつ将来の事を意識しましょう。授業で学んでいる内容を深めたり、アルバイト先やクラブ活動で身につけたい力や、なりたい目標を決めて行動しましょう。インターンシップもどんどん参加しましょう。

課外活動

発掘調査

文学部 文化財学科
3年 水川 慶紀さん



- ①豊島直博先生の研究室を訪ねて、斑鳩町での発掘調査のことを知りました。知識や技術を学ぼうと、1年生の春休みに甲塚古墳の調査に参加しました。
- ②調査区の掘削や、断面の土層の分類・測量・図面作成などを行いました。座学や書籍だけでは知り得ないことを学び、自分の中での新しい発見が数多くあり面白かったです。反面、専門性が高く、自ら学ぶ姿勢が重要だと感じました。
- ③奈良には多くの文化財と複数の文化財研究機関があります。そして、幅広い時代のたくさんの遺跡があり、多岐にわたる調査がされています。さまざまな学びができる奈良の地で、ぜひ、奈良大学の先生方の門を叩いてください。



戸垣山遺跡調査(斑鳩町)

課外活動

サークル

文学部 国文学科
2年 宮川 直也さん



- ①今年の2月、同級生や先輩と共に「方言サークル」を立ち上げました。きっかけは1年生の必修の授業「基礎演習Ⅱ」で方言のことを勉強したことです。
- ②コロナ禍で思うようにはいかない状況ですが、国内各地に実際に足を運んで方言の調査をしていきたいです。方言の知識だけでなく、大勢の人々と関わり、各地で直接話を聞くことで、多角的に物事を考えられるようになりたいです。
- ③方言サークルでは新入部員を募集しています！学部学科は問いません。まだまだ駆け出しのサークルのため、大変なことも多いかもしれませんが、その分、かけがえのない経験が出来ると思います。皆さんでサークルを作り上げていきましょう！

アルバイト

葛城市の学童保育所スタッフ

社会学部 心理学科
4年 角 将太さん



- ①公務員を目指しており、地元貢献できないかと考えていたところ、葛城市のホームページで募集を見つけました。こども好きだったこともあり、応募しました。
- ②小学校の学童保育所で、放課後に児童と遊んだり、宿題を見たり、迎えに来た保護者に児童の様子を説明したりします。子どもは良くも悪くも素直で、大人の常識は通じないので、子どもが納得する説明や、伝わるような言い方を心掛けて接しています。
- ③興味がある、好き、などの前向きな理由があれば、自分から動けるし、そのことが自信にもつながります。自分が今やっていることが、どんな人にどれくらい影響を及ぼすのかを考えるとモチベーションにもつながります。

地域連携

地域連携の一環として2022年度は奈良市、関西文化学術研究都市センター株式会社、公益財団法人古都飛鳥保存財団との活動を予定しています。学生が主体となって活動を進めていきます。



古都飛鳥保存財団との打合せの様子

キャリアプログラム	○進路希望アンケート ○進路ガイダンス ○SPI受検会 ○公務員説明会 など
講座	○1・2年生対象公務員・教員対策講座 ○初級一般教養試験対策講座[公務員・学芸員・教員・企業] ○各種資格取得講座
キャリア科目(正課授業)	○インターンシップ概論(選択科目)

キャリアプログラム	○進路ガイダンス ○SPI受検会 ○公務員説明会 ○公務員・教員向け進路ガイダンス など
講座	○1・2年生対象公務員・教員対策講座 ○2・3年生対象公務員対策講座 ○2・3年生対象教員対策講座 ○初級一般教養試験対策講座[公務員・学芸員・教員・企業] ○各種資格取得講座
キャリア科目(正課授業)	○キャリアデザイン(必修科目) ○インターンシップ概論(選択科目) ○インターンシップ実習(選択科目/対象：前年度「インターンシップ概論」単位取得者/大学が提携する受入先で実習)

3
年生

3年生はインターンシップに積極的に参加しましょう。キャリアセンターではガイダンスやイベントもたくさん予定しています。情報は自ら進んで収集してください。自己分析や、ナビサイトを利用した適職診断もやってみましょう。

インターンシップ

文学部 文化財学科
4年 岩田 朱音さん

受入先：文化庁文化財第二課
受入期間：2週間



応募の経緯は？

コロナ禍で県庁や市役所の受入が中止されるなか、国の行政機関ならと文化庁を調べました。文化財第二課は受入人数が1人だったので、選考に向けエントリーシートをキャリアセンターで何度も添削してもらい、面接練習も行いました。

どんなことを経験した？

文化庁文化財第二課がある東京には行けずほとんどWebでしたが、課員の方々から担当する仕事の説明を受け、展示室のWebツアーもしていただきました。また、私が奈良にいることから、文化庁が維持・管理する特別史跡平城宮跡と独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所を訪問しました。実際に専門家として働く人の話を聞き、自分のやりたいことの具体的なビジョンを描ききっかけとなり、文化財専門職を目指すモチベーションにつながりました。

後輩へのメッセージ

自分のやりたいことを日頃から周囲に発信していたら、よい情報を教えてもらえることがあるので、自分から積極的に発信するといいかもかもしれません。

また、知りたいことは突き詰めて調べ、物事をいろいろな観点から見つめ直すことが大切だと思います。

文学部 地理学科
4年 高田 雄登さん

受入先：玉野総合コンサルタント株式会社
受入期間：2週間



応募の経緯は？

大学生活で学んだGISやリモートセンシングの知識と技術を活かして地域社会に貢献したいと考えています。建設コンサルタント業界の技術職での就職を志望しており、第1志望の企業のインターンシップに応募しました。

どんなことを経験した？

複数の部署を回り、一通りの業務の流れを学びました。データの構築業務や顧客である地方自治体への訪問も経験しました。若手社員との座談会もあり、今後の就職活動の方針を改めて考えるきっかけになりました。また、私が卒業研究で行おうとしていることへの技術的なアドバイスをいただくことができました。

後輩へのメッセージ

令和3年度のインターンシップは数時間のWeb開催や1dayでの対面開催が多い傾向にありました。短時間では表面的な業務内容しか分からないことがほとんどだと思います。複数日開催の対面インターンシップに参加することで、企業や仕事に対する理解がより深まり、企業によっては早期選考といったチャンスを得られるので、強くお勧めします。

4
年生

いよいよ就職活動(就活)が本格化している時期です。周囲の状況を気にしすぎる必要はないですが、今の自分が何をやるべきか考えて行動しましょう。困ったらいつでもキャリアセンターに相談に来てください。

2021年度 卒業生の声



大阪府 中学校教諭
松田 啓斗さん(文学部国文学科卒業)

教員を目指して、1年の時から教育職員課程や学校図書館司書教諭課程を履修しました。塾のアルバイトや教育実習で、生徒のやる気を引き出す授業づくりにやりがいを感じ、必ず教員になろうと思いました。教育職員課程の先生が模擬授業で課題を指摘してくださり、面接の相談に乗ってくださったことで、たくさんの気づきがあり、教員採用試験合格に繋がったと思います。

大学では積極的な姿勢で授業に臨むことで国文学の楽しさが深まり、世界が広がりました。同じように、私の生徒たちにも国語の楽しさを味わってほしいです。



広島県警察
福井 融さん(社会学部総合社会学科卒業)

5歳の頃から警察官に憧れ、社会学や政治学、経済学を幅広く学び将来に活かそうと総合社会学科へ。公務員対策講座を受講し、1年の時から警察の説明会にも参加しました。「部活動は体力や継続力を養う」との採用担当者の言葉に、学業やアルバイトに励みながら、ハンドボール部の活動にも注力しました。また、白バイ隊員を視野に大型二輪免許を取得しました。

就活では、自己分析や面接練習でキャリアセンターに異なる観点からのアドバイスをもらい、自分で気づいていない強みを見つけました。全て自分だけでやろうとせず、キャリアセンターに相談するとよいと思います。



公益財団法人愛媛県埋蔵文化財センター(文化財専門職)
佐藤 直人さん(文学部文化財学科卒業)

授業や考古学研究会でのサークル活動、学外での発掘調査などを通して、考古学の調査・研究をしたいと思うようになりました。博物館に行き本物を自分の目で見ることや研究会に参加することで知識を蓄えました。また、学内外での活動を通して人脈が広がり、さまざまなアドバイスをいただきました。

就活では、埋蔵文化財に関わる文化財専門職を目指し、考古学の通史、文化財保護法、発掘調査の方法などを勉強し、受験先の地域の歴史、遺跡をリサーチしました。

学内はもちろん、学外での縁も大切にし、いろいろな分野の人と関わりを持つことで視野が広がり、自分の進む道が見えてくると思います。



株式会社パスコ
近藤 樹さん(文学部地理学科卒業)

地理学科での思い出の1つに、1年の時から参加した自主勉強会があります。「地理総合J|GIS」など複数の勉強会で積極的に学び、知識やスキルを蓄えました。発表の場として国土地理院主催のGeoアクティビティコンテストにグループで参加し、地理教育賞をいただきました。

卒業後に大学で学んだことを活かしたいと、航空測量業界を中心に就職活動に取り組み、第一志望の業界最大手企業から内定をいただきました。業界選びからエントリーシートの添削など就活の段階ごとにキャリアセンターに相談し、特に模擬面接は何度もお願いしました。いつも適切なフィードバックをいただき、面接への苦手意識が薄れ、自信につながりました。



トピックス

12月 December

14日 関西文化学術研究都市センター株式会社と包括連携協定締結



本学と関西文化学術研究都市センター株式会社(奈良市)は、平城・相楽ニュータウンの活性化を主な目的とする包括連携協力に関する協定を締結しました。

本学に隣接する平城・相楽ニュータウンは、奈良県(奈良市)と京都府(木津川市及び精華町)にまたがる、人口約4万人の大規模ニュータウンです。今年11月に街びらき50周年を迎えますが、人口減少と高齢化により、街の活性化が急務です。本学は地元大学として、教育研究活動や教職員、学生の人的交流を通じて同社と連携協力し、高の原駅周辺とニュータウンの更なる発展に寄与してまいります。

3月 March

18日 奈良大学博物館で「南都・厳島図屏風」を初公開 3月18日(金)~4月23日(土)に奈良

大学博物館 令和3(2021)年度蔵品展『奈良大学所蔵 絵画優品展 一初公開!南都・厳島図屏風』を開催しました。

令和3年度に奈良大学博物館が新たに収蔵した「南都・厳島図屏風」を初公開したほか、「源氏物語色紙」(奈良大学博物館所蔵)や「源氏物語図屏風」、「源氏物語歌留多」(奈良大学図書館所蔵)など絵画作品を中心に11件136点を展示しました。



初公開の「南都・厳島図屏風」



19日 令和3年度 学位記授与式



令和3年度の奈良大学卒業証書・学位記授与式及び大学院学位記授与式

を行いました。前日からの雨も上がり、穏やかな春の日差しのもと、卒業生・修了生が、思い出深いキャンパスから巣立っていきました。



4月 April

2日 令和4年度入学式



桜が咲き誇るなか、令和4年度の奈良大学・奈良大学大学院入学式が行われました。学科ごとの教室にわかれた新入生たちは、今津節生学長による入学許可宣言と祝辞を視聴し、新たな一歩を踏み出しました。



クローズアップ①

「プロジェクト」

(令和3年度 後期 実施)

担当教員 副学長・社会学部 総合社会学科 教授 島本 太香子

「プロジェクト」は全学科全学年の学生が履修できるアクティブラーニング型の授業です。令和3年度は、総合社会学科の島本太香子教授が担当し、「地域の安全・安心」をテーマに、奈良県警察本部(以下、奈良県警)の指導と協力のもと実施しました。前半の授業は、奈良県警の本部長をはじめ、各部門の警察官を講師に招き、警察の活動と地域の安全安心を守る仕組みについて学びました。後半の授業では、座学で学んだ内容を踏まえて実践できる活動を考察し、防犯活動や啓発活動などを企画・実施して、地域の課題解決の取り組みを体験しました。

10月18日(月)

奈良県警 大橋一夫本部長(当時)を講師としてお迎えし、「安全・安心の確保のため警察が果たす役割」をテーマにお話いただきました。



11月24日(水)

交通管制センターの見学と鑑識課の仕事の体験実習を行いました。



交通管制センターの見学



指紋採取の体験実習



足跡採取の体験実習

1月14日(金)

幼児への啓発を図るグループの学生が奈良大学附属幼稚園を訪れ、年長児約60人を対象に交通安全と防犯の啓発活動を行いました。



啓発劇の様子



園庭で横断歩道の渡り方の実習

1月19日(水)

3つのグループが、それぞれの取り組みについて発表する成果報告会を開きました。奈良県警の警務部、生活安全部、交通部、本学と包括的連携協定を締結している公益財団法人 古都飛鳥保存財団、関西文化学術研究都市センター株式会社の方々、また株式会社URコミュニティや地域住民の方々にもご参加いただき、活発な質疑応答も行われました。

グループのテーマ

- ①大学近隣(平城・相楽ニュータウン)の交通安全と防犯マップ作成
- ②明日香村の観光の交通安全と防犯マップ作成
- ③附属幼稚園児への交通安全と防犯の啓発



島本教授によるプロジェクトの概要説明



テーマ①の発表



テーマ②の発表



テーマ③の発表

「江戸の出版文化と板木—浮世絵を摺る—」

京都の出版社・芸艸堂(うんそうどう)と佐藤木版画工房より摺師(すりし)を招き、1月19日(水)に令和3年度 国文学科体験型講義『江戸の出版文化と板木—浮世絵を摺る—』を開催しました。

担当教員の中尾和昇准教授による挨拶と講師紹介に続き、芸艸堂の早光照子氏から、伝統的な木版画の制作を手掛ける芸艸堂の歴史や木版画の技術などをお話いただきました。その後、摺師の中山誠人氏による実演が行われ、葛飾北斎の浮世絵シリーズ『富岳三十六景』の一つ「神奈川浪浪裏」が摺られていく工程を見学しました。

芸艸堂 早光 照子氏

芸艸堂は1891年創業の美術専門出版社。日本で唯一の手摺木版本出版社でもある。



摺師 中山 誠人氏

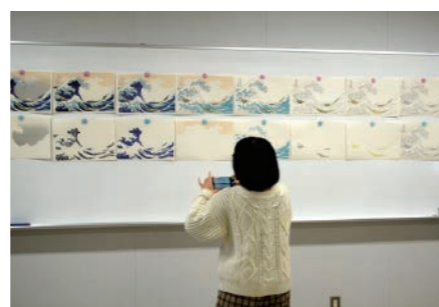
40年にわたり木版制作に携わる。国内をはじめフィンランド、デンマークなど海外での実演や、「初音ミク」「The Rolling Stones」等とコラボした浮世絵木版の摺りも手がける。



完成した作品に触れる



バレンの構造を見る



18の工程を知る



司会を務める中尾和昇准教授(左)

奈良大学では、本物を「見る、触れる、聞く、感じる」「生きた学問」に取り組むことを重視しています。国文学科では、資料の実物を見ること、文学の舞台に実際に出向くことなど、「体感する国文学」を学びの基本の一つとし、それらを通じて作品を多角的にとらえていきます。

「江戸時代の出版文化に直に触れる貴重な体験を通じて、どのように昔の本が出来上がっていたのかという知識を得るだけでなく、板木によって印刷する技術を現代に伝承する講師をお招きして、「本という文化」を伝える意義についても学生に学んでほしいと考えています。」(中尾和昇准教授[日本近世文学])

奈良大学特別奨学生

奈良大学特別奨学金は、前途有為な人材の育成を目的として、人物・識見及び学業成績ともに優れ、修学意欲がある者に対して給付されます。令和3年度の奈良大学特別奨学生は、下記の通りです。

文学部				社会学部				
国文学科	3年(当時)	入船 真由さん	地理学科	3年(当時)	町田 流星さん	心理学科	3年(当時)	宮城 結さん
"	"	箱谷 真実さん	"	"	福富 果歩さん	"	"	山本 圭吾さん
史学科	3年(当時)	大坪 賢斗さん	文化財学科	3年(当時)	高比良 百花さん	総合社会学科	3年(当時)	山崎 あす香さん
"	"	大西 和貴さん	"	"	山中 千聖さん	"	"	高橋 良輔さん

学長表彰 (課外活動部門)

社会貢献及び課外活動において、表彰に値すると認められた学生個人または学生団体に対し、学長賞を授与します。令和3年度は、課外活動部門において「書道部」と「GIS勉強会」の2団体が表彰されました。

書道部

昭和49(1974)年6月の創部以来、定期的に課外活動の成果を広く学内外で公開し、一般市民の方々にも披露しています。コロナ禍においてもネット上にてオンライン展示を行うなど新しい活動方法を模索し活発な活動を継続しました。本学課外活動の模範であり、その向上に大きく貢献した書道部の功績が評価されました。

令和3年度部長 金尾 僚泰さん

[文学部地理学科 4年(表彰時3年)]



輝かしい賞を頂戴し光栄です。書道部の活動の成果を認めていただきうれしく思います。せっかく入部してくれた後輩に、「コロナ禍だからできない」とは言えず、できる範囲で何らかの活動をしようと考え、実行しました。私たちにとって展示会は活動の要です。令和2年度はオンラインで開催し、一般の方にも見ていただけました。令和3年度は、緊急事態宣言が解除された時期だったので、奈良県文化会館で美術部、写真研究会との合同展示会を開催できました。今後も、私たちをとりまく環境は不透明ですが、どんな状況でも後輩たちにはよりよい書道部を作り上げてほしいです。



令和3年度合同展示会



GIS勉強会

地理学科の学生と教員による自主勉強会です。第17回GISコミュニティフォーラム(主催:ESRIジャパンユーザ会)の主要イベント「マップギャラリー」で、ストーリーマップ部門第1位となる快挙を遂げたことが評価されました。

受賞作品「高等教育向けフィールドワーク案[大和郡山]」は主催者のホームページでご覧いただけます。



受賞作品

田嶋 れみさん

[文学部地理学科 3年(表彰時2年)]



勉強会や地理学科での学びについて発信でき、うれしく思います。昨年度の方々の努力が実り、とても光栄です。制作したストーリーマップは、郡山城周辺を歩いて学ぶフィールドワーク案です。土地の起伏や水害のハザードマップ、古地図と現代の地図との比較などの情報を地図に重ねて表示し、視覚的に面白い作品に仕上げました。この4月から高校で「地理総合」が必修となるので、高校生や高等学校の地歴科の教員が使って欲しいと思い作成しましたが、一般の人の町歩きにも使えます。活動を通して、GISの新たな技術が身につく、充実感と達成感がありました。

勉強会には最初、友達に誘われて興味本位で参加しました。高い目標を持つ人が多く、互いに刺激あい高めあっているのが、私の意識も変わりました。GISを真剣に学べるので、興味のある人は勉強会に参加してみてください。



ストリートマップグループ部門で第1位に輝いたグループ



学長表彰副賞のモニターを使って活動



2005(平成17)年4月に開設した奈良大学 通信教育部・文学部文化財歴史学科は、これまでに1807人の卒業生を輩出し、全国各地にお住まいの18歳から87歳までの学生約1350人の方が学んでいます。

今回は「受賞」をキーワードに、著書『奈良 高畑町界限—その歴史と伝承—』で奈良新聞文化賞を受賞された卒業生の大槻旭彦さんと、第5回考古学写真甲子園『古墳のある風景』を撮ろうⅢ(主催:奈良県立橿原考古学研究所附属博物館、公益財団法人 由良友史会、一般財団法人 橿原考古文化財団)で友史会賞を受賞された猪足光恵さんにお話を伺いました。

奈良新聞文化賞を受賞して

卒業生 大槻 旭彦 さん (奈良県在住)2013年3月卒業

仕事を65歳で辞めると決めていましたが、その後の具体的な過ごし方に悩んでいた時、奈良大学通信教育学部を知り、これが自分の求めていたものだと確信し、3年次に編入学しました。

入学後は、好きなことを勉強することが、こんなに楽しいことだったのかと改めて気づかされ、かつては苦痛であった試験でさえ、むしろ楽しみと思われ、予想以上に楽しい学生生活を過ごすことができました。

1年でテキスト科目の試験はすべてクリアし、2年目はスクーリングを気分転換に、ひたすら卒業論文に取り組みました。地元が春日大社の社家町として栄えた高畑であったことから、テーマは春日大社を取り上げると決めていましたが、当初、担当教授である寺崎先生から難し過ぎるから変えたらどうかと言われ逆に闘志に火が付きまして。後で先生にお聞きすると、覚悟を試したとのことで、まんまと作戦に嵌まったわけです。

卒業論文は、その時点で最善は尽くしたのですが、時間・枚数の制限もあり、調べ尽くせなかったことを卒業後も調査を続けていました。

その間に町の地蔵尊や昔の町の様子、高畑に伝わる伝承等を聞き書きした貴重な資

料を手に入れ、このままでは消えていく伝承を本として、後世に残すべきではないかという思いを抱くようになりました。

おりしも、高畑に残された唯一の春日の禰宜屋敷の調査が始まり、それを担当されたのが入学時に通信教育学部長であった

西山要一先生という縁にも恵まれ、2021年2月に『奈良 高畑町界限—その歴史と伝承—』という本を上梓することができました。

更に思いもかけず、奈良新聞文化賞という大きなご褒美まで、人生の晩年で頂くことができ、これもすべて、奈良大学通信教育学部の学びとご縁のお蔭と、改めて感謝する次第です。



『奈良 高畑町界限—その歴史と伝承—』
(2021年2月刊行)



平成24(2012)年度
卒業証書・学位記授与式にて

大好きな古墳を学問の目線で考える

在学生 猪足 光恵 さん (東京都在住)

第5回考古学写真甲子園という写真コンテストで友史会賞(2位)をいただきました。「整備された古墳」という応募テーマがあり、山形県の稲荷森古墳を撮影したのですが、表彰されて大変嬉しく思います。

私は、幼少の頃から古墳が好きで、各都道府県の古墳、海外の古代墳墓を撮影しながら回っています。相当数見ているにも関わらず知識が浅いため、学問として歴史を身に付けたいと思っていました。ですが、働いているので大学に通学することは難しく、通信制にチャンスはないかと考えて、私立大学通信教育協会の合同入学説明会に参加しました。奈良大学のブースで、働きのながらの学習は可能か、遠方在住で支障があるかななどを直接相談してみました。その結果、1年次入学生は在学期間が最長で16年という規定がありますし、少し時間がかかってもいいので大学と仕事を両立させてみたいと思い、40代でのチャレンジを決めました。

高校生の時に進学を諦めた経験があったのですが、今になり大学で学ぶという夢が叶いました。古墳が好きで文化財歴史学科を選んだので、他の教養科目は苦手だと思っていたところ、「情報基礎・倫理」や「人間論」などが社会生活の中で非常に役に立つので、今は興味をもってテキストを読むことが出来ています。

表彰式の翌日に、「文化財学講読Ⅱ」のスクーリング資料を片手に掲載されている桜井市の古墳などを回り、また撮影もしてきました。入学前はただ見るだけだった古墳が、今は学問の目線で考え、調べながら見学するようになり、学び方に変化が出てきました。レポートを書くために図書館にも通っています。働きながらですが、卒業を目指して日々勉強を進めていこうと思います。



友史会賞状と一緒に



活躍する卒業生

歴史を体験し、共有する楽しさ

徳島県立博物館

学芸員

松永 友和 さん

(2002年3月 文学部史学科卒業)



奈良で歴史を学ぶ

小・中学生の頃から歴史(日本史)が好きだった私は、せっかく歴史を学ぶのであれば東京方面よりもむしろ歴史の舞台である奈良の地で学びたいと思い、奈良大学に進学しました。静岡から奈良に移住し最初に驚いたのは、通学途中に大きな古墳や平城宮跡などがあることです。また明日香村を訪れ、多くの史跡を巡り写真を撮ったことも懐かしい思い出です。歴史に囲まれた中で学生時代を過ごすことができたのは、幸せだったと思います。

大学入学当初は学校の教員を目指し、卒業後は地元に戻り教員になることを漠然と考えていました。そのため、学芸員資格の取得は二の次でしたが、今思うと取得しておいて本当に良かったと思います。奈良大学卒業後は関西大学大学院に進学し、2011年4月に運よく徳島県立博物館の学芸員として採用され、現在に至ります。



古文書講座中の様子

歴史を学ぶ楽しさ

20年余前の事を今思い出すと、奈良大学で学んだことが、現在の職場に少なからず活かされていることに気付かされます。恩師の鎌田道隆先生のご指導のもと、「実験歴史学」と称して奈良から伊勢まで歩いたり、「からくり玩具」をゼミの仲間と共同で作成したりと、学生時代ならではの楽しい学びを体験することができました。それは、「歴史を知る楽しさ」から「歴史を体験し、共有する楽しさ」への飛躍でもありました。このことは、博物館で学芸業務にたずさわる者として、大切な事柄だと思っています。

メッセージ

私自身、高校生の時は理系のクラスに属し、散々悩んだ結果、文学部史学科に進学しました。興味があることに突き進むことは、意外と容易ではありません。大・小の目標を立てながら、学生時代しかできないさまざまな体験をしてほしいと思います。

■ インフォメーション

■ 創設者・藪内敬治郎先生の命日墓参



学校法人奈良大学の創設者である藪内敬治郎先生の命日にあたる4月21日(木)に、浅川正美理事長、法人役員らが藪内先生のお墓参りをしました。この墓参りは1981年より毎年、藪内先生のご遺徳を偲んで行われています。

■ 人事

<4月1日付人事異動は下記の通り>

●就任▽学長・今津節生▽文学部長／文学研究科長・土平博▽通信教育部長・渡辺晃宏▽入学センター長・吉村治正▽学生支援センター長・中戸義雄▽博物館長・魚島純一●新任採用▽文学部国文学科教授・大西英人(共通教育)▽文学部地理学科講師・羽佐田紘大(自然地理学、環境地理学)▽文学部文化財学科准教授・大河内智之(日本美術史、日本彫刻史)▽社会学部心理学教授・金澤忠博(進化発達心理学、臨床発達心理学)▽社会学部総合社会学科教授・倉光巖(経営学、会計学)▽社会学部総合社会学科講師・片雪蘭(文化人類学、難民研究、地域研究)

<3月31日付は下記の通り>

●退任■任期満了による退任▽奈良大学学長・清水哲郎
●退職■定年規程第2条による退職▽文学部文化財学科教授・関根俊一
■定年規程第3条による退職▽文学部地理学科教授・池田安隆■依願退職▽社会学部心理学准教授・山本尚子■契約満了による退職▽文学部国文学科教授・堀川忠道▽社会学部総合社会学科教授・領内修

■ 第16回「全国高校生歴史フォーラム」

本学と奈良県が主催する「全国高校生歴史フォーラム」では、全国の高校生を対象に、地域の歴史や地理、史跡、文化財、文学、人物などに関する研究レポートを募集します。応募締切は9月2日(金)[当日消印有効]です。審査結果は10月7日(金)に全国高校生歴史フォーラムサイト(奈良大学ホームページ内)等で発表します。詳細は全国高校生歴史フォーラムホームページをご確認ください。お問い合わせは、全国高校生歴史フォーラム実行委員会(奈良大学内0742-41-9588)まで。



歴史フォーラム

全国高校生歴史フォーラムホームページ
<http://www.nara-u.ac.jp/forum/>

■ 学年暦および行事予定について

奈良大学ホームページでご確認いただけます。



学年暦および行事予定
(奈良大学ホームページ)
<http://www.nara-u.ac.jp/life/calendar/>



奈良大学ホームページ
<http://www.nara-u.ac.jp/>

■ 学生生活における相談先

◆ 総合相談受付: 学生支援センター 学生担当

どこに聞いたらよいのか、誰に聞けばわかるのかなど、学生生活で何か困ったことがあれば、気軽に相談してください。

◎場所/A棟(本部棟)2F

◎時間/月～金曜日 8:30～16:50 土曜日 8:30～12:30

※夏期・冬期・春期休業中や試験期間、大学行事等により時間が変更になる場合があります。

◆ 学生相談室

学生の個人的な悩みや諸問題の解決にできるだけ示唆・助言を与えるため、学生相談室が設けられています。相談相手は、相談室のカウンセラー(臨床心理士)と学生相談員(教員)です。予約方法などの詳細はホームページで確認ください。

◎場所/J棟(総合研究棟)1F

学生相談室・サポートルーム(J-104)

◎開室時間/月～土曜日 10:00～17:00

※祝日を除く

※夏期・冬期・春期休業中は、基本的に閉室しています。

学生相談室(奈良大学ホームページ)

<http://www.nara-u.ac.jp/life/counseling/>



学生相談室

◆ 障がいのある学生の支援体制

学生相談室では障がいや疾患等のある学生が大学で支援・配慮を受けるための申請手続きや、一人ひとりのニーズに応じたサポートを行っています。障がいや疾患等のある学生で、修学上の心配ごと、困りごとなどがありましたら、学生相談室にご連絡ください。学生支援センター学生担当・教務担当、授業担当教員等と連携しながら支援を行います。

◆ 医務室

看護職スタッフが在室して、学生の皆さんが心身ともに健やかに学生生活を過ごせるようサポートしています。

構内での病気・ケガの応急処置の他、健康相談、病院の紹介等の助言も行っています。

◎場所/J棟(総合研究棟)1F J-103

◎開室時間/月～金曜日 9:00～17:00

※祝日を除く

土曜日 9:00～12:30 ※祝日を除く



医務室

医務室(奈良大学ホームページ)

<http://www.nara-u.ac.jp/life/dispensary/>

■ 近刊紹介～本学教員の著書～

◆ 奈良大ブックレット10

『スマートフォンと〇〇の世界』

社会学部総合社会学科

ナカニシヤ出版 2022年3月刊行

第1章 スマートフォンと依存の世界
(教授・正司哲朗 著)

第2章 スマートフォンと人間関係の世界
(教授・中原洪二郎 著)

第3章 スマートフォンと意思決定の世界
(講師・中坊勇太 著)

第4章 スマートフォンと社会調査の世界
(教授・吉村治正 著)

第5章 スマートフォンと企業間国際競争の世界
(教授・尾上正人 著)

第6章 スマートフォンと民主主義の世界
(教授・竹中浩 著)



◆ Living in a Nuclear World From Fukushima to Hiroshima

文学部史学科 教授・高橋博子 共著

Routledge: London, 2022年刊行

◆ Broadcast: ABC WORLD NEWS TONIGHT 4

文学部文化財学科 教授・山根キャサリン 共編著

金星堂 2022年度新刊

附属高等学校

令和4年度入学式

4月7日(木)奈良大学附属高等学校体育館にて入学式がおこなわれ、新入生332名が新たな生活への期待に胸を膨らませ、高校生活をスタートさせました。

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、式典は体育館でおこなわれ、保護者には別教室にてライブ配信を御覧いただく形をとりました。担任教諭から一人ずつ名前を呼ばれた新入生が堀川忠道校長から入学を許可された後、新入生を代表して木村綾音さんが「建学の精神を心に刻み、さまざまなことに挑戦していきたい」と宣誓しました。



◆ 地図で読み解く関西のことば

文学部国文学科

教授・岸江信介 共編著

昭和堂 2022年4月刊行



奈良大学名誉教授で1994年から2000年に学長を務められた水野正好先生(1934-2015)の著書が刊行されました。

◆ 日本のまじなひ 古代・中世の心根にふれる

水野正好 著(奈良大学名誉教授)

高志書院 2022年4月刊行

本学文学部文化財学科卒業生で滋賀県立大学人間文化学部教授の佐藤亜聖氏の著書が刊行されました。

◆ 中世都市奈良の考古学的研究

佐藤亜聖 著

吉川弘文館 2022年2月刊行

附属幼稚園

入園式

4月11日(月)、色とりどりのチューリップや桜、新しい遊具、笑顔の先生たちに迎えられ、63人のお友だちが奈良大学附属幼稚園に入園しました。

先生が「おはようございます、よろしくお祈りします」と1人ひとりに笑顔で声を掛けると、「おはよう」とあいさつしてくれた新入園児たち。緊張した表情を見せたり、保護者の後ろに隠れたりする姿もありましたが、お母さんに名札をつけてもらい、保育室のきれいな飾りつけやおもちゃを見て目をキラキラ輝かせ、これから始まる幼稚園生活をとても楽しみにしているようでした。

新型コロナウイルスや世界情勢の問題など、気になることはたくさんありますが、教職員一同、力を合わせ希望と喜びに満ちた日々を送ることが出来るようにしたいと思います。さあ、令和4年度の幼稚園生活のスタートです。

